

社協だより



手と心
つないで築く
京丹後

令和6年3月25日発行
第98号

正しく学び身につけよう防災の知識

(防災士による出前講座と非常食の試食 子育てサロン「はとひよクラブ」)

目次

2P~3P 福祉委員の活動紹介

4P~5P 防災 ~自宅避難・自宅トイレの活用方法~

6P 令和6年能登半島地震 社協職員派遣

7P お知らせ

8P あいたん広場

4つの役割 (福祉委員活動)

出会いの場づくりなどを行っている地域活動の困っている人が早い段階で専門職などの支援機域でつながる仕組みを作るため、区や社協、地題の解決に向けて取り組んでいます。



もしもの時に、サービスが使えるように！

ひろめる 情報提供

住民に必要な福祉の知識や暮らしに役立つ情報などを、区内で広めましょう。

外出のための市内
相乗りサービスの説明



元町区「ふれあいだより」

主な活動内容

峰山町元町区福祉委員会

元町区では毎月欠かさず、広報紙「ふれあいだより」を発行しています。区民に必要な福祉の情報や区の行事、区民の活動紹介など、生活に役立つ情報を掲載しています。

区内の出来事に関する情報を発信し、区内で共有することで、状況を把握することができ、より安心して生活できる地域となるよう繋げています。

網野町住吉区福祉委員会

住吉区健康サロンでは、区内在住の理学療法士の指導により、隣の人と笑い合いながら体を伸ばす体操を行いました。

専門職から指導を受けることで、健康について意識を高める機会となりました。

主な活動内容

丹後町徳光区福祉委員会

徳光区福祉サロンでは、サロン参加者の「スマホに変な電話やメールが入ってきて困る」、「アプリって何」などの悩みごとを解決するため、スマホ教室を企画しました。

先生にはパソコンなどが得意な地域の人を招き、スマホ画面をテレビに大きく映して分かりやすく説明が行われ、サロンでは参加者のラインつながりを目標に、毎回、少しずつ学んでいます。

福祉委員には、看護師や介護職員、カラオケの先生などがあり、月2回のサロンは、健康チェックを受けたり、体操や脳トレ、レクリエーション、長寿者から歴史を学ぶなど多機能な集いの場になっています。夏休みは、子どもたちもサロンに参加し多世代で楽しんでいます。

網野町郷区福祉委員会

郷区のサロンは、コロナの影響もあり中断していましたが、以前の参加者からの強い再開希望や担い手が揃ったことから、今年度、活動を再開することができました。どんな内容が参加しやすいか、みんなで相談しながら企画しています。



一人で悩む人をつくらない！

つなげる 交流の場づくり

人と人、人と地域がつながる場づくりをしましょう。交流の場は、見守りや声かけなど「みつける」活動、学びの場など「ひろめる」活動にもつながります。



スマホの使い方について学ぶ

地域福祉の巡活結

福祉委員とは、身近な地域での見守りや声かけ、担い手です。地域の困りごとや変化に気づき、関につながるよう、また、孤立することなく地域の福祉関係者と連携し、一緒に地域の生活課

心配な人や困っている人はいませんか？

みつける

見守り・声かけ

普段の暮らしのなかで、無理なく、できる範囲で「見守り」や「声かけ」を行い、困りごとや変化を見つけましょう。



自宅に訪問、元気を確認

手助けが必要な人がいたときは？

しらせる

仲間と相談
専門機関へ連絡

「みつける」活動で気づいたことは、一人で抱え込まず、民生委員・児童委員や他の福祉委員、社会福祉協議会に相談しましょう。



福祉委員と民生委員・児童委員による懇談

主な活動内容

大宮町三重区福祉委員会

三重区では、ひとり暮らしの人の見守り活動を行っています。サロンの案内や個人的な用事で訪問する時を利用して、困りごとや変わりごとがないかなど、日々の生活の中からさりげなく見守っています。

そして出会えない時はメッセージを添えたりして、気にかけていることを伝えています。

峰山町二箇区福祉委員会

二箇区では、隣組に一人ずつ福祉委員がいます。前任者から「見守り活動を丁寧に」と引継ぎを受け、身近な隣組で日ごろから気にかけてるようにしています。

夏と冬には高齢者等を対象とし訪問活動をしています。直接会って顔を見てお話をすることを大切に活動しています。

主な活動内容

弥栄町堤区福祉委員会

堤区では、出会った人に声をかけたり、ひとり暮らしの人の家の様子など気にかけるようにしています。

以前、普段と違うなと感じることがあり、区長（民生委員・児童委員）に相談し、社協につなげたところ、住人が家の中で倒れていたということがありました。

一人での活動は負担になりますが、継続的な活動を行うため、みんなで取り組んでいます。

久美浜町佐濃自治会福祉委員

佐濃地区は 17 地区ありますが、福祉委員が一人の区が多く一人では活動しにくいと、佐濃自治会の教育福祉部に所属し講座や会議を開いています。

今年度は、認知症の理解や予防の講座をしたり、民生委員・児童委員との見守り連携について話し合いました。

地震等災害への備えを ～自宅避難時のトイレ使用～

令和6年元日に発生した「令和6年能登半島地震」では、京丹後市においても大きな揺れを感じましたが、石川県能登半島地域では200人を超える人が亡くなられ、また未だに多くの人が避難を余儀なくされています。そして、津波災害や断水、停電、そして道路の寸断により多くの市町村でライフラインが途絶するなど、災害の恐ろしさとともにそれに対する備えの大切さを改めて認識させられました。

特に断水は自宅避難されている人には深刻な問題であり、時には災害関連死につながるケースもあります。また、災害用の準備として、非常食や非常用持出袋などはすぐに想像できますが、トイレのことを考える人は少ないと思います。

今回は、このようなことから、可能な限りストレスの少ない避難生活を送るために、災害時のトイレの使用について考えます。

災害時のトイレ問題とは

災害が発生した時、まずは避難するかしないかの判断をします。仮に自宅避難が適切と判断した場合、自宅で避難生活をするにあたり避けては通れない問題があります。それは「トイレが使用できるかどうか」です。

東京都の調査では、災害が発生して電気やガス、水道が使用できなくなった場合、復旧の目安は電気・ガスが7日、水道が60日はかかるとされています。

また、大正大学の実施した熊本地震のアンケート調査では、地震発生後3時間以内にトイレに行きたいと回答された人は約4割、6時間以内に行きたいと回答された人は約7割となっており、トイレの重要性が示された結果となっています。

また、トイレが使用できないと水分や食事を我慢して健康被害となり災害関連死につながることもあります。熊本県危機管理防災課の報道資料によると、熊本地震では、犠牲者273人のうち、80%の218人が「災害関連死」でした。

また、地震によって排水管が割れたり曲がったり損傷している場合があり、浴槽等に水をためて家のトイレに使つと、損傷箇所で詰まり、逆にトイレからあふれ出す危険があります。

今回、水道が使用できない状況でも、自宅でストレスの少ない避難生活を過ごすためのトイレの活用方法についてご紹介します。



能登半島地震による被害（地盤の隆起）
提供：京都府災害ボランティアセンター



能登半島地震による被害（電柱の倒壊）
提供：京都府災害ボランティアセンター

準備

ポリ袋がずれないようにテープ等で固定し、設置します。



災害はいつどこで発生するか予測ができず、自身や家族の命を守るためにも、もしものために備えておくことが必要です。そして、備えておくべきものや知っておくべき知識はたくさんありますが、今回は災害時の準備として、考えることが少ないと思われるトイレ問題についてご紹介しました。

想像を遥かに超える力で襲ってくる災害において備えすぎということはありません。

しかし、多くのものを備えるのはハードルが高いと感じる人も少なくないと思います。災害について考えることも備えるの一步です。まずは、災害について考え、今回紹介するトイレの用意してみてください。

手順 3



トイレ使用後は、手順1のポリ袋のみ取り外し、災害時のゴミの捨て方に従って処分してください。

手順 2



準備で設置したポリ袋の上から手順1のポリ袋をセットし、凝固剤を入れます。凝固剤の入れるタイミングは商品により異なるため、確認してご使用ください。

手順 1



ポリ袋が三角形になるように、片側の角をもつ片側の角と合わせるように持ちます。一手間加えることで手順3のように便や尿が角に寄ります。

災害時のトイレ活用方法

用意するものは、ポリ袋2枚（45リットル程度の強度のあるもの）とテープ、凝固剤を用意します。自宅の便器に**準備**のようにポリ袋を設置し、手順1から手順3の要領で活用します。

凝固剤は、通販やホームセンター、ドラッグストア等で販売されています。



災害ボランティア 事前登録者募集

災害に強い地域づくりを目指し、防災について啓発したり、災害時の支援活動にご協力いただける人・団体を募集しています。

登録には申請が必要ですが、まずは本会HPをご覧ください。お電話にてお問い合わせ下さい。

令和6年能登半島地震 災害義援金ご協力のお願い

令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震で被災された人を支援するために、京丹後市社会福祉協議会（本所・各支所）にて義援金募金箱を設置しておりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

がんばろう!!



能登!!

センター運営をとおり 被災者の生活再建を支援

大規模災害が発生した場合、社会福祉協議会は相互支援の精神に基づき、被災地の社会福祉協議会が運営する災害ボランティアセンターを支援します。

今回の「令和6年能登半島地震」については、近畿ブロック府県・指定都市社協連絡会議での決定に従い、京都府社協及び京都市社協、そして府下の市町村社協連合会は七尾市の災害ボランティアセンターを支援することになり、1月25日から4月3日までを17クールに分け、職員派遣を行っています。

本会からは、第8クールで森口事業主任が現地に赴きその任務に就きました。今後は第16クール（3月24日から30日まで）に職員を派遣する予定です。

派遣期間

令和6年2月21日～27日

業務内容

災害ボランティアセンターで受付たニーズをもとに、活動前調査を行いました。ボランティアがおおよそ何人いるか、必要な資機材や災害廃棄物の運び出しに軽トラが何台必要か、活動にあたり危険はないかなど、被災家庭を訪問し確認しました。

また、ボランティアが活動先に向かうための説明等送り出しを担当しました。

支援最終日にはセンター用の災害廃棄物仮置き場の撤去作業をボランティアと共に行いました。

ボランティア及び支援団体

七尾市では、市内在住の軽トラボランティア、石川県民ボランティアセンターに登録されたボランティアが活動しています。

す。毎日、100名を超えるボランティアが活動していました。

青年会議所は活動先へのボランティア送迎や災害廃棄物の運び出しを担当、奈良市環境部の緊急災害援助隊はパッカー車や2トントラックを用いて災害廃棄物の仮置き場までの運搬を担当していました。

地域の力

七尾市には地域づくり協議会という地縁組織があり、自助と共助によるまちづくりをすすめています。その協議会が中心になり、災害廃棄物の運搬や集積など、被災者支援活動に取り組まれている地域がありました。

派遣を終えて

七尾市は京丹後市と同じく市町村合併により広域なエリアを持つ市です。そのため、センター本部から離れた場所に臨時的に拠点を移し運営されるなど、活

動がスムーズにできるよう工夫されていました。

また、ニーズ管理を受付から活動完了まで一貫して行えるシステムや、通信・配車管理システムを活用しており、その利便性を知ることができました。

被災者の思いに寄り添って行えたか、七尾市社会福祉協議会の支援になったか、反省することとは多くありますが、七尾市災害ボランティアセンターの活動及び支援は、引き続き行われています。ここ京丹後からもできる支援を引き続きしていきたいと思っています。



廃棄物の集積所で奈良市環境部の職員と打ち合わせ

善意のご寄附

あたたかいお気持ちをいただき、ありがとうございました。
(令和5年12月1日～令和6年2月29日受付分)

供養として

平田 勝彦 様(峰山町内記)
300,000円 亡父 富義 様
匿名 様(網野町)
30,000円 亡父 様
田中 町子 様(弥栄町吉沢)
100,000円 亡夫 嘉信 様
匿名 様(久美浜町)
50,000円 亡父 様

ホールインワン基金を寄附

峰山町グラウンド・ゴルフ協会
会長 荻野 平行 様
20,000円
久美浜町グラウンド・ゴルフ協会様
7,500円

釣銭の一部を寄附

小市郎商店お客様(丹後町間人)
2,953円

地域福祉事業へ

藤居 一洋 様(峰山町杉谷)
11,000円
株式会社ベルマリエ 様(峰山町菅)
9,000円(通算211回目)
竹中壽明家族一同 様
ポータブルトイレ、シルバーカー
北村 福夫 様(峰山町荒山)
30,000円
山本 泰弘 様(峰山町丹波)
レクリエーション道具
蛭子 智子 様(網野町木津)
6,000円(通算427回目)
たんぽぽグループ様(久美浜町)
7,612円
京丹後市高齢者大学
久美浜学園俳句講座受講生様
300円

生活福祉資金のご案内

他の貸付制度が利用できない低所得世帯や障がい者世帯、高齢者世帯に対し、資金の貸付と必要な相談・支援により、経済的自立と生活の安定を図ることを目的とした貸付制度で、下記の資金の他にも資金があります。

生活福祉資金に関するご相談や問い合わせは、お住まいの地区の民生委員・児童委員、下記の資金相談窓口にご連絡ください。

福祉資金(福祉費)

住宅の改修や障がい者世帯の自動車購入、療養・葬儀・引越しの費用など、日常生活を送る上で一時的に必要な経費のための貸付です。

福祉資金(緊急小口資金)

緊急かつ一時的に世帯の生計が困難となった場合の貸付です。

教育支援資金

高校、大学、短大、専門学校への就学に際し、入学金・制服などの入学時に必用な経費と、授業料や通学定期代などの就学に必要な経費の貸付です。(※合格発表前の申請も可能です)

総合支援資金

失業などにより、日常生活全般に困難を抱えた世帯の生活の立て直しのための資金です。

※資金の種類ごとに貸付条件があります。

※事後申請(発注、購入、支払い済みの費用)は貸付対象となりません。

生活福祉資金コロナ特例貸付を受けられた方へ

温ったか京都・寄り添いワーカーが、
生活のお困りごとと一緒に考えていきます。

コロナ特例貸付を受けられた方が、引き続き安心して暮らせるよう、償還をはじめ、生活のお困りごとに対し支援を行ってまいりますので、ひとりで抱え込まず、下記の資金相談窓口にご相談ください。

※新型コロナウイルス感染症の影響による休業や失業した世帯への特例の資金貸付制度で、令和4年9月30日に貸付は終了しました。



資金相談窓口

京丹後市社会福祉協議会 丹後支所 0772-75-0808

※本所や他の支所でも受付しています。

また、対面相談の時間、場所については相談の上調整します。

あいたん広場は地域でがんばっておられる人や団体の活動を紹介するコーナーです。

「こどもふくめぐる実行委員会」は、網野町島津ふれあいセンターで、年に数回『こどもふくめぐる』というイベントを開催しています。このイベントでは子供服や絵本等を必要とする人と、任意で持ち寄る人との橋渡しをしています。



来場者でにぎわう広く明るい会場

こどもふくめぐる
子育てサポート



気に入ったものを持ち帰る多くの親子連れでにぎわいます。来場者は多いときには70人をこえる時もあり、会場には授乳室やおむつ替えスペースも設けられ、子育て世帯からとても喜ばれています。

イベントの案内はSNSや島津連合区の回覧板などで広く周知され、京丹後市内の人はもちろんのこと市外から足を運ぶ人もあり、注目されています。

自宅で保管していた子供服や絵本が、イベントを通して次の必要とする人へめぐっていき、地域で子育てをサポートすることにつながっていきます。

【問い合わせ】
こどもふくめぐる実行委員会



公式 LINE はこちら



今年度7年目を迎えた「TANGOこども未来プロジェクト」を知っていますか？これは丹後の子どもたちに理科や科学に興味をもってもらい、将来の丹後の機械産業や先端技術を担う人を育てていくことというものです。

丹後機械工業協同組合（通称・TANKI）では京都府丹後教育局や京都府繊維・機械金属振興センター、そして市と協力しながら小・中学校に出向き、出前授業を通じてものづくりの魅力を伝えています。

授業の内容は、組合に所属



高校生が講師となって小学生に出前講座を実施

未来の丹後の技術者を育て
丹後機械工業協同組合(TANKI)の取組



する企業が直接講師を務めるプログラムや、峰山高校・機械創造科の生徒が講師となり授業を行うプログラムもあり、児童・生徒から大変好評です。

また、TANKIでは高校生を対象にインターンシップや企業見学を実施しており、この取組をきっかけに組合に所属する企業に就職をする生徒も多いということです。

小学校から高校まで継続的に接点を持ち続け、ものづくりの魅力を伝えるTANKIの取組にこれからも目が離せません。



近くを走る丹鉄の車窓から高校生の注目を集める※QRコード。



発行 / 社会福祉法人 京丹後市社会福祉協議会

〒627-0111 京都府京丹後市弥栄町溝谷3464 TEL 0772-65-2100 FAX 0772-65-3294

http://www.kyoshakyo.or.jp/kyotango/ E-mail: info@kyotango-shakyo.jp

FBアドレス https://www.facebook.com/kyotangoaitan

京丹後市やさか老人保健施設ふくじゅ専用HP https://yasaka-fukujyu.jp/

峰山支所（峰山総合福祉センター隣 TEL 62-4128）

大宮支所（市大宮福祉会館内 TEL 64-2037）

網野支所（網野健康福祉センター内 TEL 72-0797）

丹後支所（市丹後庁舎内 TEL 75-0808）

弥栄支所（市弥栄庁舎内 TEL 65-2100）

久美浜支所（市久美浜庁舎内 TEL 82-0008）

※この広報は、寄附金及び赤い羽根共同募金の配分金の一部を活用して作成しています

